

第 167 回 日本循環器学会東北地方会

プログラム

会 期:平成 30 年 12 月 1 日(土)午前 8 時 55 分より

会 場:仙台国際センター

仙台市青葉区青葉山 TEL 022 (265) 2111(代表)

第1会場: 橘 (2F)

第2会場: 萩 (2F)

第3会場: 白樺1 (3F)

第4会場: 白樺2 (3F)

第5会場: 小会議室1 (1F)

第6会場: 小会議室2 (1F)

会 長 渡辺 昌文

事務局:山形大学医学部内科学第一講座

山形市飯田西 2-2-2

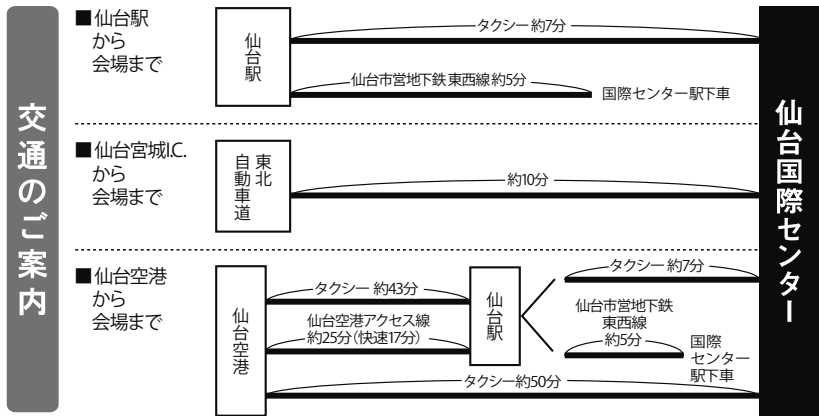
TEL 023 (628) 5302

FAX 023 (628) 5305

- 当日受付にて参加費のお支払いをお願いいたします。
(医師／その他 3,000 円、コメディカル 1,000 円、学生・初期研修医 無料)
- 一般演題: 発表時間は 5 分(予鈴 4 分)、追加討論 2 分、YIA の発表時間は 7 分(予鈴 6 分)、追加討論 3 分とします。時間厳守をお願いします。
 - コンピュータープレゼンテーションによる発表のみとします。
 - Windows 版 Power Point2010、2013、2016 で作成して下さい。
 - 動画は使用できません。
 - Macintosh 及び持込 PC での発表はできません。
 - 発表 30 分前までに、作成したデータを USB メモリーにに入れて PC 受付にお持ち下さい。
 - データのファイル名には演題番号(半角)に続けて発表者の氏名(漢字)を必ず付けて下さい
(例: 10 山形太郎.ppt)。
 - 不測の事態に備えて必ずバックアップデータをお持ち下さい。
- *35mmスライドによる発表はできません。
- 本会場内に託児施設を設置いたします。
ご希望の方は東北支部 HP をご参照の上、11 月 22 日(木)までにお申し込みください。
- 学術集会(5 単位)、教育セッション(3 単位)とします。
- DVD セッション「医療安全・医療倫理に関する講演会」を 1F 小会議室1で行います。
専門医認定更新に必修の 2 単位が取得できます。(P24 参照)

追記:学会案内状・プログラムは、原則として日本循環器学会会費納入者に限り発送いたします。
会場にクロークの設置はございません。

交通のご案内



■仙台駅から仙台国際センターまでの交通機関

仙台市地下鉄東西線利用

料金200円（所要時間 5 分）

【乗車駅】

地下鉄東西線「仙台駅」(八木山動物公園行)

【降車駅】

地下鉄東西線「国際センター駅」(「南口1」出口より徒歩1分)

※会場へは会議棟1階地下鉄駅側入口よりお入りください。

なお、展示棟入口は利用不可となります。

タクシー利用

料金 約1,000円（仙台駅より所要時間約7分）

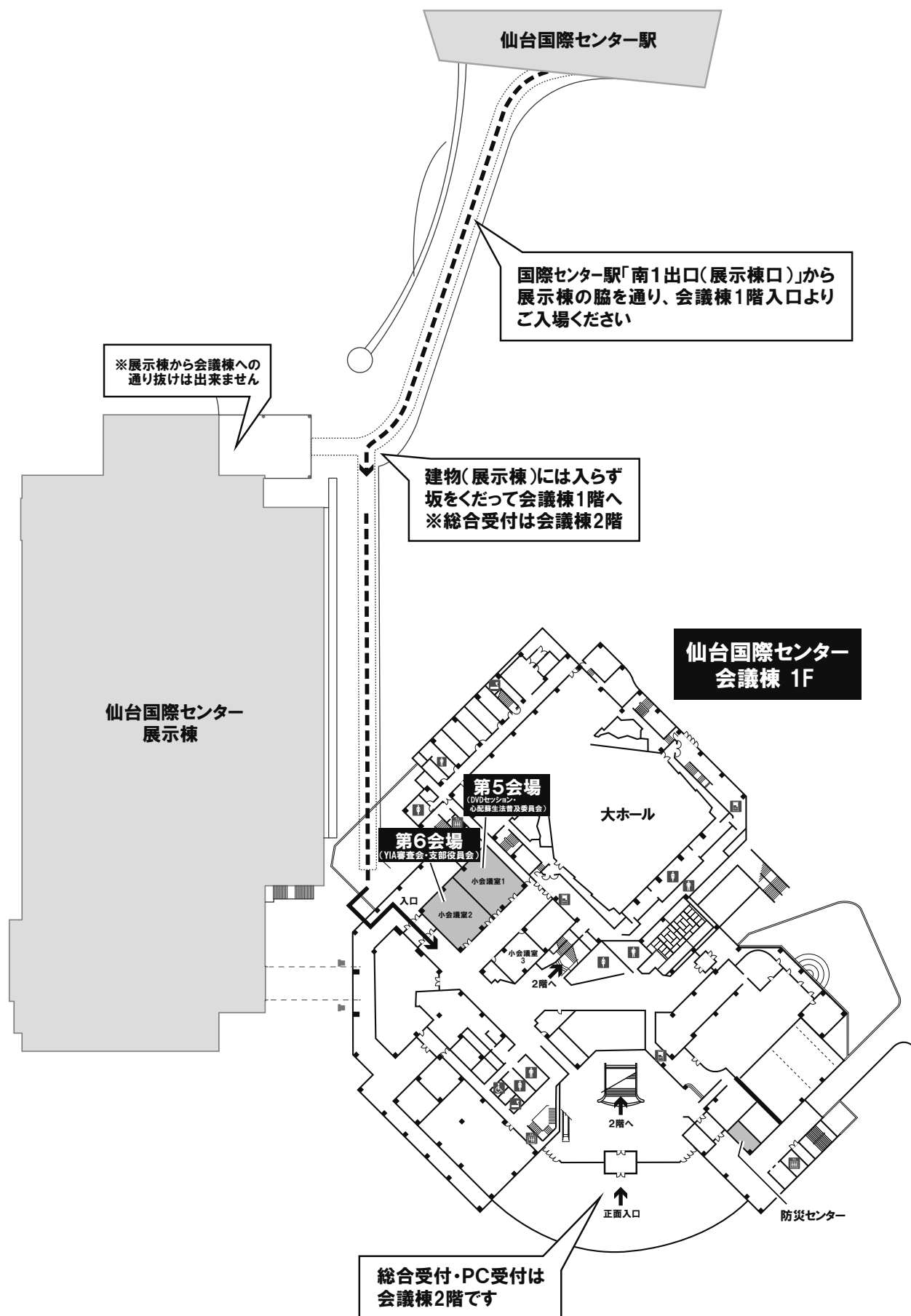
※会場へは会議棟1階正面入口よりお入りください。

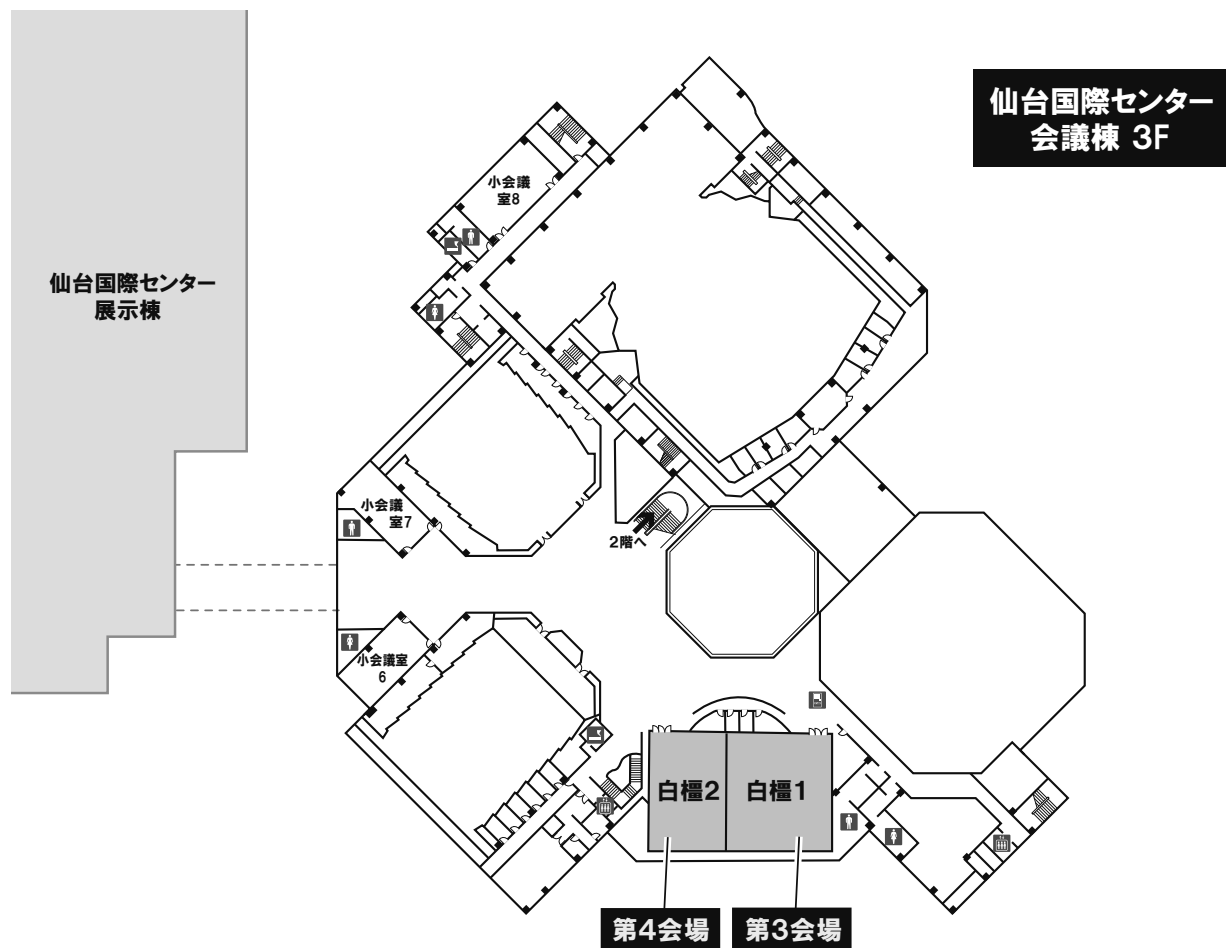
■自家用車

東北自動車道「仙台宮城IC」から所要時間約10分（仙台西道路經由「青葉城跡（仙台城跡）」方面の標識に従ってご走行ください）

※有料地下駐車場（収容台数96台）がございますが、できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

会場案内図





プログラム(敬称略)

	第1会場 2F 橘	第2会場 2F 萩	第3会場 3F 白檀1	第4会場 3F 白檀2	第5会場 1F 小会議室1	第6会場 1F 小会議室2
8:30	8:30 受付開始					
9:00	8:55～9:00開会挨拶 会長 渡辺 昌文 (山形大学)					
9:00	9:00～9:50 YIA症例発表部門 座長 渡辺 昌文 (山形大学)	9:00～9:35 不整脈Ⅰ 心房細動 座長 八木 哲夫 (仙台市立病院) 座長 熊谷 浩司 (東北医科薬科大学)	9:00～9:35 虚血性心疾患Ⅰ 座長 富岡 智子 (みやぎ県南中核病院) 座長 大道寺 飛雄馬 (山形県立中央病院)	9:00～9:35 心筋炎・心筋症 座長 田村 晴俊 (山形大学) 座長 熊谷 亜希子 (岩手医科大学)	9:00～11:00 DVDセッション 医療安全・医療倫理に 関する講演会	
10:00	9:50～10:40 YIA研究発表部門 座長 渡辺 昌文 (山形大学)	9:35～10:10 不整脈Ⅱ 上室不整脈 座長 平 カヤノ (米沢市立病院) 座長 大和田 真玄 (岩手医科大学)	9:35～10:10 虚血性心疾患Ⅱ 座長 高橋 大 (山形大学) 座長 中村 裕一 (竹田綜合病院)	9:35～10:10 感染性心膜炎 座長 尾上 紀子 (仙台医療センター) 座長 大和田 尊之 (福島赤十字病院)		
11:00	10:40～11:15 心不全Ⅰ 座長 高野 真澄 (福島県立医科大学) 座長 宮本 卓也 (山形県立新庄病院)	10:10～10:45 不整脈Ⅲ 心室不整脈 座長 中野 誠 (東北大学) 座長 池田 こずえ (篠田綜合病院)	10:10～10:38 虚血性心疾患Ⅲ 座長 飯野 健二 (秋田大学) 座長 芳沢 美知子 (岩手医科大学)	10:10～10:45 心膜・腫瘍 座長 伏見 悦子 (平鹿綜合病院) 座長 及川 雅啓 (福島県立医科大学)		10:40～11:15 YIA審査会 集 計(10:40～11:00) 審査会(11:00～11:15)
11:00	11:15～11:50 心不全Ⅱ・疫学 座長 佐藤 和奏 (秋田大学) 座長 肥田 頼彦 (岩手医科大学)	11:20～11:55 肺高血圧・血栓・その他 座長 佐藤 公雄 (東北大学) 座長 山本 沙織 (東北大学)	11:20～11:55 二次性心筋症 座長 西山 悟史 (山形大学) 座長 西崎 史恵 (弘前大学)	10:45～11:55 ダイバシティ 推進セミナー 座長 杉 正文 (市立総合磐城共立病院) 座長 熊谷 亜希子 (岩手医科大学)		11:15～11:45 支部役員会
12:00	12:00～12:40 支部評議員会 YIA授賞式				11:45～12:00 心肺蘇生法普及委員会	
13:00	12:50～13:50 教育セッションⅠ ランチョンセミナー1 Nazzareno Galiè 循環器内科(DIMES-UNIBO) ボローニャ大学 イタリア 座長 下川 宏明 (東北大学)	12:50～13:50 教育セッションⅡ ランチョンセミナー2 石原 正治 兵庫医科大学内科学 循環器内科・冠疾患科 座長 竹石 恭知 (福島県医科大学)				
14:00	13:50～14:50 教育セッションⅢ 特別講演 渡邊 博之 秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座 座長 渡辺 昌文 (山形大学)					

* 平成27年12月より、下記3つの会を開催します。

「支部役員会(毎回開催)」「支部社員総会(今回は12月開催、28年度より毎年6月開催)」、「支部評議会(毎回開催)」

従来通り一般会員の先生方のご参加は可能ですが、議決権は有しません。

YIA 症例発表部門(第1会場) 9:00~9:50

座長 渡辺 昌文

01 粘液腫と酷似した左房原発内膜肉腫の一例

秋田大学 循環器内科学

○貝森 亮太、小武海雄介、田村 善一、新保 麻衣
佐藤 輝紀、佐藤 和奏、飯野 貴子、関 勝仁
飯野 健二、渡邊 博之

秋田大学 心臓血管外科学

田中 郁信、山浦 玄武、山本 浩史

02 前立腺癌で加療中にたこつぼ型心筋症を発症し、後にステロイド自己中断による副腎不全が原因と判明した一例

弘前大学 循環器腎臓内科学講座

○酒井峻太郎、西崎 史恵、遠藤 知秀、澁谷 修司
花田 賢二、横田 貴志、富田 泰史

03 PGI₂ 製剤による下垂体炎から副腎不全をきたした肺動脈性肺高血圧症の一例

東北大学 循環器内科学

○佐藤 遥、杉村宏一郎、山本 沙織、建部 俊介
青木 竜男、三浦 正暢、鈴木 秀明、紺野 亮
照井 洋輔、佐藤 公雄、下川 宏明

04 ステロイドパルス療法および大量免疫グロブリン療法が著効し救命することができた劇症型心筋炎の1例

公立置賜総合病院

○立花 紳吾、新関 武史、中村 元治、竹村 昭宣
熊谷 遊、岩山 忠輝、北原 辰郎、池野栄一郎

05 V122I 変異を伴う孤発性トランスサイレチン型心アミロイドーシスの一例

福島県立医科大学 循環器内科学講座

○根橋 健、及川 雅啓、菅野 優紀、天海 一明
山田 慎哉、國井 浩行、中里 和彦、石田 隆史
竹石 恭知

YIA 研究発表部門(第1会場) 9:50~10:40

座長 渡辺 昌文

06 HFpEF 患者の予後予測のための簡便かつ普遍的な「3A3B リスクスコア」の開発

東北大学 循環器内科学

○笠原信太郎、坂田 泰彦、後岡広太郎、阿部 瑠璃
佐藤 雅之、青柳 肇、藤橋 敬英、山中 信介
三浦 正暢、白戸 崇、高橋 潤、杉村宏一郎
下川 宏明

東北大学 循環器 EBM 開発学

宮田 敏

シンガポール国立大学 シンガポールナショナルハートセンター

テイ ワンティン、テン テウハ キャサリン

ハーバード大学 ブリガムウィメンズ病院

クラゲット ブライアン リー

07 左室内同期不全における左室内渦動態の特徴:Vector Flow Mapping を用いた検討

秋田大学 循環器内科学

○須藤 佑太、飯野 貴子、小武海雄介、佐藤 和奏
佐藤 輝紀、関 勝仁、飯野 健二、渡邊 博之

08 安定冠動脈疾患でのエベロリムス溶出性ステント留置後の Irregular Protrusion 予測因子の検討

岩手医科大学 循環器内科

○田口 裕哉、伊藤 智範、佐々木 航、小田 英人
内村 洋平、兼古 恭輔、坂本 翼、後藤 巖
佐久間雅文、石田 大、大竹 寛雅、森野 禎浩
寺下 大輔
新家 俊郎

神戸大学 循環器内科学

昭和大学 循環器内科学

09 microRNA-21 が関与する線維化シグナルと拡張型心筋症における左室逆リモデリング

山形大学 第一内科

○渡部 賢、成味 太郎、青野 智典、後藤 準
須貝 孝幸、豊島 拓、加藤 重彦、田村 晴俊
西山 悟史、高橋 大、有本 貴範、宍戸 哲郎
渡邊 哲、渡辺 昌文

10 心不全患者におけるがんの既往と予後および新規がん発症に関する検討

福島県立医科大学 循環器内科学講座

○渡邊孝一郎、義久 精臣、横川 哲朗、三阪 智史
佐藤 崇匡、及川 雅啓、小林 淳、国井 浩行
八巻 尚洋、中里 和彦、石田 隆史、竹石 恭知

心不全 I (第1会場) 10:40~11:15

座長 高野 真澄
宮本 卓也

11 貧血により Diastolic Ventricular Interaction と急性心不全をきたした1例

仙台医療センター

○鈴木 亭子、高橋 佳美、江口久美子、山口 展寛
尾上 紀子、石塚 豪、篠崎 毅

12 右総腸骨動静脈瘻に対し EVAR 施行後に左心不全の悪化を認めた1例

東北大学 循環器内科学

○迫田 みく、菊池 順裕、杉村宏一郎、建部 俊介
青木 竜男、三浦 正暢、山本 沙織、鈴木 秀明
佐藤 遥、紺野 亮、照井 洋輔、後岡広太郎
佐藤 公雄、下川 宏明

13 経皮的動脈弁バルーン形成術により心不全から脱却し得た高度動脈弁狭窄症の一例

星総合病院 心臓病センター 循環器科

○黒沢 雄太、丸山 幸夫、木島 幹博、清野 義胤
坂本 圭司、松井 佑子、清水 竹史、佐藤 彰彦
八重樫大輝、磯松 大介

14 β 遮断薬休薬がカテコールアミンおよび ASV のウイニングに有効であった慢性心不全の一例

宮城利府掖済会病院 内科

○片寄 大

15 ASV 使用心不全患者における呼吸安定時間測定の意義

市立秋田総合病院 循環器内科

○安部 誓也、中川 正康、若林 飛友、島田 俊亮
藤原美貴子、柴原 徹、藤原 敏弥

きびら内科クリニック

鬼平 聡

秋田大学 循環器内科学

渡邊 博之

心不全Ⅱ・疫学(第1会場) 11:15～11:50

座長 佐藤 和奏
肥田 頼彦

16 心不全発症高リスク症例における左室駆出率の経時的変化とその予後との関連: CHART-2 研究

東北大学 循環器内科学

○青柳 肇、坂田 泰彦、後岡広太郎、三浦 正暢
笠原信太郎、佐藤 雅之、藤橋 敬英、山中 信介
白戸 崇、杉村宏一郎、高橋 潤、下川 宏明
宮田 敏

東北大学循環器 EBM 開発学

17 慢性心不全患者における栄養状態、サルコペニアと予後の検討-CHART-2 研究からの報告-

東北大学 循環器内科学

○佐藤 雅之、坂田 泰彦、後岡広太郎、三浦 正暢
阿部 瑠璃、笠原信太郎、青柳 肇、藤橋 敬英
山中 信介、白戸 崇、杉村宏一郎、高橋 潤
下川 宏明
宮田 敏

東北大学 循環器 EBM 開発学

18 在宅医療患者における心不全合併について

齋藤病院

○盛田 真樹

19 植え込み型ループレコーダーを植え込んだ患者には不整脈に関連した外傷歴が多い

仙台医療センター 循環器内科

○江口久美子、高橋 佳美、山口 展寛、尾上 紀子
石塚 豪、篠崎 毅

20 本学における医学科初年次生への心エコー実習・OSCE の試み

秋田大学 医学教育学

○新保 麻衣、長谷川仁志

秋田大学 総合地域医療推進学講座

佐藤 和奏

秋田大学 循環器内科学

渡邊 博之

不整脈Ⅰ 心房細動(第2会場) 9:00~9:35

座長 八木 哲夫
熊谷 浩司

21 cryoballoon ablation による食道潰瘍とダビガトラン起因性食道潰瘍が鑑別困難であった発作性心房細動の1例

仙台市立病院 循環器内科

○伏見 八重、石田 明彦、三引 義明、山科 順裕
佐藤 弘和、中川 孝、佐藤 英二、青木 恒介
鈴木 啓資、井筒 琢磨、倉島 真一、八木 哲夫

22 肺静脈切除後に発症した発作性心房細動に対して冷凍凝固バルーンを使用し隔離できた1例

仙台市立病院 循環器内科

○倉島 真一、鈴木 啓資、伏見 八重、井筒 琢磨
鈴木 舞、青木 恒介、佐藤 英二、中川 孝
佐藤 弘和、山科 順裕、三引 義明、石田 明彦
八木 哲夫

23 クライオバルーンによる右上肺静脈隔離中に上大静脈電位の遅延を認めた一例

仙台市立病院 循環器内科

○寺嶋 祥、八木 哲夫、石田 明彦、三引 義明
山科 順裕、佐藤 弘和、中川 孝、佐藤 英二
青木 恒介、鈴木 啓資、佐藤 舞、井筒 琢磨
倉島 真一、伏見 八重

24 CARTO を使用した非肺静脈起源心房細動に対するマッピング法の工夫

仙台厚生病院 循環器内科

○富樫 大輔、箆井 宣任、須知 太郎、大友 達志
目黒泰一郎

25 上大静脈頻拍がドライバーであった発作性心房細動の1例

東北大学 循環器内科学

○三木 景太、中野 誠、相澤健太郎、長谷部雄飛
諸沢 薦、下川 宏明

不整脈Ⅱ 上室不整脈(第2会場) 9:35～10:10

座長 平 カヤノ
大和田真玄

26 2種類の頻拍が誘発された複数副伝導路の1例

仙台市立病院 循環器内科

○鈴木 啓資、石田 明彦、倉島 真一、伏見 八重
井筒 琢磨、佐藤 舞、佐藤 英二、中川 孝
佐藤 弘和、山科 順裕、三引 義明、八木 哲夫

27 全身性エリテマトーデスに合併した不適切洞頻脈に対して sinus node modification を施行した1例

岩手県立釜石病院 内科・循環器科

岩手医科大学 循環器内科

○芳沢 礼佑、山屋 昌平、永田 恭平、川上 幹夫
小島 香、中村真理絵、櫛田 房紀、大和田真玄
小松 隆

28 偽性アルドステロン症による心室細動を合併した徐脈性心房細動に対してセレクトセキアを留置した一例

山形大学 第一内科

○横山 美雪、田村 晴俊、沓澤 大輔、大瀧陽一郎
土屋 隼人、青野 智典、高橋 徹也、橋本 直明
石垣 大輔、成味 太郎、和根崎真大、加藤 重彦
西山 悟史、高橋 大、有本 貴範、穴戸 哲郎
渡邊 哲、渡辺 昌文

29 His 束近傍右側中隔副伝導路にクライオアブレーションが奏功した一例

仙台市立病院 循環器内科

○山科 順裕、八木 哲夫、石田 明彦、三引 義明
佐藤 弘和、中川 孝、佐藤 英二、青木 恒介
鈴木 啓資、井筒 琢磨、倉島 真一、伏見 八重

30 最早期興奮部位と異なる場所の通電で治癒しえた ATP 感受性心房頻拍の一例

米沢市立病院 循環器内科

○平 カヤノ、上北 洋徳、渡辺 達也

不整脈Ⅲ 心室不整脈(第2会場) 10:10~10:45

座長 中野 誠
池田こずえ

31 Reversed U curve technique を用いて焼灼に成功した肺動脈起源心室性期外収縮の一例

福島県立医科大学 循環器内科

○瀧澤 栞、上岡 正志、金城 貴士、天海 一明
松本 善幸、肱岡奈保子、八巻 尚洋、竹石 恭知

32 ステロイド治療慢性期に房室伝導が改善した心サルコイドーシスの一例

日本海総合病院 循環器内科

○禰津 俊介、枝村 峻佑、小林 祐太、門脇 心平
菊地 彰洋、桐林 伸幸、佐藤 陽子、近江 晃樹
菅原 重生

33 心腔内エコーが有用であった流出路起源心室期外収縮の一例

弘前大学 循環器腎臓内科

○濱浦 奨悟、富田 泰史
弘前大学 不整脈先進治療学講座 金城 貴彦、木村 正臣、佐々木真吾、堀内 大輔
伊藤 太平、石田 祐司、外山 佑一

34 リード破損を生じながら抜去に成功した、長期留置ペースメーカー感染症例

東北大学 循環器内科学

○中野 誠、相澤健太郎、長谷部雄飛、三木 景太
諸沢 薦、林 秀華、下川 宏明

35 LV summit 起源の心室頻拍で心機能が低下したと考えられた一例

太田総合病院附属太田西ノ内病院

○増田 大晃、神山 美之、西浦 司人、遠藤圭一郎
和田 健斗、金澤 晃子、石田 悟朗、小松 宣夫
武田 寛人

不整脈Ⅳ ICD・CRT(第2会場) 10:45～11:20

座長 佐々木真吾
武田 寛人

36 当院に於ける高位右室中隔ペーシング患者の予後の検討

山形県立河北病院内科

○見沢 達夫、太田 郁郎

37 CRT におけるマルチポイントペーシング設定可能な割合の検討

仙台厚生病院 心臓血管センター 循環器内科

○箴井 宣任、須知 太郎、富樫 大輔、多田 憲生
本多 卓、大友 達志、目黒泰一郎

38 経静脈両心室ペースメーカー植込術が可能であった修正大血管転位症術後症例

岩手県立中央病院 循環器内科

○山田 魁人、近藤 正輝、泉 聖也、和山 啓馬
門坂 崇秀、加賀谷裕太、佐藤謙二郎、金澤 正範
遠藤 秀晃、高橋 徹、中村 明浩、野崎 英二

39 スクリーニングの自動化が S-ICD に及ぼす潜在的有用性の検討

弘前大学 循環器腎臓内科学講座

○外山 佑一、石田 祐司、佐々木真吾、金城 貴彦
伊藤 太平

弘前大学 不整脈先進医学講座

堀内 大輔、木村 正臣

40 冠静脈側壁枝入口部高度狭窄に対して retrograde approach 及び Venoplasty を行い CRT-D 植込みに成功した 1 例

仙台厚生病院 循環器科

○須知 太郎、箴井 宣任、富樫 大輔、松本 崇
目黒泰一郎

肺高血圧・血栓・その他(第2会場) 11:20~11:55

座長 佐藤 公雄
山本 沙織

41 ポスチニブによって肺高血圧を生じた症例

仙台医療センター 循環器内科

○高橋 佳美、江口久美子、山口 展寛、尾上 紀子
石塚 豪、篠崎 毅

42 神経線維腫症 1 型ともやもや病に併発した成人発症末梢性肺動脈狭窄症の 1 例

山形県立新庄病院

東北大学 循環器内科学

山形大学 第一内科

○宮本 卓也、水戸 琢章、奥山 英伸、結城 孝一
杉村宏一郎、下川 宏明
渡邊 哲、加藤 重彦、西山 悟史、横山 美雪
渡辺 昌文

43 葉酸欠乏症と高ホモシステイン血症を伴い肺血栓塞栓症を発症したアルコール依存症の一例

山形市立病院済生館 循環器内科

○金子 一善、屋代 祥典、中田 茂和、宮脇 洋

44 左心耳内血栓に対する治療戦略として開胸左心耳閉鎖術を選択した 2 症例

秋田大学 循環器内科学

○阿部 起実、関 勝仁、田村 善一、小武海雄介
鈴木 智人、飯野 健二、渡邊 博之

45 SMI を用いた新しい血管内皮機能評価法の有用性

秋田大学 循環器内科学

○山中 卓之、佐藤 和奏、須藤 佑太、飯野 貴子
飯野 健二、渡邊 博之

虚血性心疾患 I (第3会場) 9:00~9:35

座長 富岡 智子
大道寺飛雄馬

46 心筋梗塞症例における駆出期の主流軸線の評価

東北医科薬科大学病院 循環器内科

○長谷川 薫、田中 元直、小丸 達也

東北医科薬科大学病院 中央検査室

中島 博行、黒川 貴文

東北医科薬科大学病院 心臓血管外科

皆川 忠徳

東北医科薬科大学病院 総合診療科

大原 貴裕

東北大学 大学院 医工学研究科

Sri Oktamuliani、西條 芳文

47 Type 1 心筋梗塞と Type 2 心筋梗塞の予後

仙台市医療センター仙台オープン病院 循環器内科

○浪打 成人、川原 翔太、砂村慎一郎、牛込 亮一

野田 一樹、瀧井 暢

48 血管内視鏡にて非狭窄部位に黄色プラークを認めた虚血性心疾患の2症例

秋田大学 循環器内科学

○加藤 宗、小武海雄介、佐藤 輝紀、関 勝仁

鈴木 智人、飯野 健二、渡邊 博之

49 多枝攣縮が誘発なしにドキュメントされ、異なる動脈硬化の形態を呈した院外心停止蘇生例の一例

東北大学 循環器内科学

○菊地 翼、土屋 聡、三木 景太、進藤 智彦

池田 尚平、長谷部雄飛、相澤健太郎、羽尾 清貴

白戸 崇、中野 誠、松本 泰治、高橋 潤

坂田 泰彦、下川 宏明

50 心室中隔穿孔で搬送された急性下壁心筋梗塞の一例

山形大学 医学部 附属病院 卒後臨床研修センター

○小山 響子

山形大学 第一内科

成味 太郎、青野 智典、横山 美雪、石垣 大輔

沓澤 大輔、加藤 重彦、渡辺 昌文

山形大学 第二外科

浜崎 安純、貞弘 光章

虚血性心疾患Ⅱ(第3会場) 9:35～10:10

座長 高橋 大
中村 裕一

51 診断に難渋した心タンポナーデの一例

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

○藤原 純平、佐々木健太、二宮 亮、新山 正展
肥田 頼彦、下田 祐大、森野 禎浩

52 心破裂合併の急性心筋梗塞に対し待機的血行再建後に遅発性再破裂を起こした1症例

弘前大学 循環器腎臓内科学講座

○反町 悠也、横田 貴志、遠藤 知秀、西崎 史恵
澁谷 修司、花田 賢二、富田 泰史

53 薬剤溶出性ステント閉塞を認めた急性心不全の一例

寿泉堂総合病院 循環器内科

○羽金 裕也、水上 浩行、谷川 俊了、鈴木 智人
金澤 正晴

54 バルデナフィル内服後に発症した急性心筋梗塞の一例

寿泉堂総合病院 循環器内科

○須藤 一達、水上 浩行、谷川 俊了、鈴木 智人
金澤 正晴

55 腹痛を主訴とし上腸間膜動脈虚血に後壁冬眠心筋を合併した透析患者の一例

雄勝中央病院 内科・循環器科

○松田 健一

虚血性心疾患Ⅲ(第3会場) 10:10~10:38

座長 飯野 健二
芳沢美知子

56 ワルファリン休薬1ヶ月後に血栓閉塞による心筋梗塞を再発した一例

東北医科薬科大学 医学部 内科学第一(循環器内科)

○菊田 寿、小丸 達也、熊谷 浩司、中野 陽夫
菅井 義尚、山家 実、亀山 剛義、関口 祐子
長谷川 薫、住吉 剛忠

57 SAPHO 症候群に合併した冠動脈3枝病変に対してCABGを施行した一例

山形大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

○三浦 崇裕
山形大学医学部附属病院 第一内科 成味 太郎、橋本 直明、加藤 重彦、有本 貴範
渡辺 昌文
山形大学医学部附属病院 第二外科 浜崎 安純、貞弘 光章

58 IgG4関連疾患に合併した冠動脈病変を血管内超音波検査で観察し得た一例

弘前大学 循環器腎臓内科学講座

○山崎 堅、遠藤 知秀、川村 陽介、野坂 匡史
西崎 史恵、澁谷 修司、花田 賢二、横田 貴志
富田 泰史

59 大動脈基部に局限した炎症により、冠動脈起始部高度狭窄を来した高安動脈炎の一例

福島県立医科大学 循環器内科学講座

○市村 祥平、瀧澤 栞、安藤 卓也、金城 貴士
國井 浩行、竹石 恭知

次世代カテーテル治療(第3会場) 10:38~11:20

座長 秋山 正年
飯野 貴子

- 60 IVC フィルター留置のため、腋窩動静脈で PCPS をスタンバイし TAVI を施行した超高齢女性の 1 例
山形県立中央病院

○永井 貴之、福井 昭男、木下 大資、佐々木真太郎
大道寺飛雄馬、高橋 克明、玉田 芳明、松井 幹之
矢作 友保

- 61 当院における外科生体弁機能不全に対する経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAV in SAV) の経験
仙台厚生病院 循環器内科

○野村 丈紘、多田 憲生、遠田 佑介、水谷有克子
田中綾紀子、箴井 宣任、松本 崇、堀江 和紀
伊澤 毅、宗久 雅人、櫻井 美恵、本多 卓
大友 達志、井上 直人

- 62 大動脈四尖弁に対する経カテーテル大動脈弁留置術を施行した 1 例
岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

岩手医科大学 臨床検査医学講座
岩手医科大学 心臓血管外科

○芳沢美知子、熊谷亜希子、二宮 亮、坂本 翼
中島 祥文、石川 有、房崎 哲也、森野 禎浩
田代 敦
鎌田 武、金 一

- 63 三尖弁との鑑別に心臓超音波および TAVI-CT が有用であった二尖弁の症例
慶應義塾大学病院

○福田 芽森、板橋 裕史、白川 公亮、遠藤 仁
鶴田ひかる、村田 光繁、林田健太郎、福田 恵一

- 64 化学療法後心筋症に伴う高度機能性僧帽弁逆流症に対して MitraClip を用い経カテーテル治療を行なった一例
岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

岩手医科大学 心臓血管外科学講座

○中島 祥文、熊谷亜希子、二宮 亮、佐々木健太
芳沢美知子、田代 敦、森野 禎浩
金 一

- 65 大動脈側周囲縁完全欠損を伴う二次孔心房中隔欠損に Figulla FlexII 閉鎖栓で治療した 5 例の検討
岩手医科大学 臨床検査医学講座・循環器医療センター

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

岩手医科大学 小児科学講座

○田代 敦

上田 寛修、芳沢美知子、熊谷亜希子、二宮 亮
中島 祥文、森野 禎浩
高橋 信、小山耕太郎

二次性心筋症(第3会場) 11:20~11:55

座長 西山 悟史
西崎 史恵

66 心肥大患者における心臓 MRI T1 mapping を用いたファブリー病スクリーニングの有用性

東北大学 循環器内科学

○照井 洋輔、杉村宏一郎、山本 沙織、建部 俊介
青木 竜男、三浦 正暢、鈴木 秀明、菊池 順裕
佐藤 遥、紺野 亮、下川 宏明

67 不幸な転帰をとった Morquio 症候群の 1 例

竹田綜合病院 初期研修医

○湯田健太郎

竹田綜合病院 循環器内科

中村 裕一、片平 正隆、横川沙代子、三浦 俊輔
鈴木 聡

竹田綜合病院 心臓血管外科

齋藤 正博、川島 大

68 発作生心房細動、洞不全症候群を契機に発見されたトランスサイレチン心アミロイドーシスの一例

青森県立中央病院 循環器科

○赤石 楓、西崎 公貴、鈴木 晃子、舘山 俊太
櫛引 基、今田 篤、藤野 安弘

69 老人性 TTR 型心アミロイドーシスの一例

山形県立中央病院 循環器内科

○木下 大資、福井 昭男、永井 貴之、佐々木真太郎
大道寺飛雄馬、高橋 克明、玉田 芳明、矢作 友保
松井 幹之

70 副腎腫瘍摘除により心機能の改善を認めたクッシング症候群合併妊娠の 1 例

東北大学 循環器内科学

○迫田 みく、建部 俊介、杉村宏一郎、青木 竜男
三浦 正暢、山本 沙織、鈴木 秀明、佐藤 遥
菊池 順裕、紺野 亮、照井 洋輔、後岡広太郎
佐藤 公雄、下川 宏明

心筋炎・心筋症(第4会場) 9:00~9:35

座長 田村 晴俊
熊谷亜希子

71 心房細動による頻脈誘発性心筋症の1例

公益財団法人 星総合病院

○亀岡 英介

公益財団法人 星総合病院 循環器内科

佐藤 彰彦、磯松 大介、黒沢 雄太、八重樫大輝
清水 竹史、松井 佑子、坂本 圭司、清野 義胤
木島 幹博、丸山 幸夫

72 劇症型心筋炎に対して経皮的人工心臓(IMPELLA)を用いて救命した一例

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

○那須 崇人、木村 優、二宮 亮、新山 正展
肥田 頼彦、下田 祐大、房崎 哲也、伊藤 智範
森野 禎浩

73 劇症型心筋炎により不可逆的な完全房室ブロックとなった一例

日本海総合病院 循環器内科

○大野 紘枝、小林 祐太、枝村 峻佑、門脇 心平
禰津 俊介、菊地 彰洋、桐林 伸幸、佐藤 陽子
近江 晃樹、菅原 重生

74 たこつぼ症候群を合併した後腹膜膿瘍による敗血症性ショックの1例

岩手県立釜石病院 内科・循環器科

○小林 敬正、芳沢 礼佑、山屋 昌平、永田 恭平
川上 幹夫

岩手医科大学附属病院 内科学講座 循環器内科分野

那須 崇人、田口 裕哉、二宮 亮、後藤 巖
中島 悟史、木村 琢巳

75 きのか中毒を契機に発症したたこつぼ心筋症の一例

岩手医科大学 内科学講座 循環器内科分野

○佐々木健太、下田 祐大、那須 崇人、後藤 巖
肥田 頼彦、伊藤 智範、森野 禎浩

感染性心膜炎(第4会場) 9:35~10:10

座長 尾上 紀子
大和田尊之

76 Valsalva 洞破裂を来した感染性心内膜炎の1例

竹田総合病院 初期研修医

○千葉 直貴

竹田総合病院 循環器内科

中村 裕一、片平 正隆、横川沙代子、三浦 俊輔

鈴木 聡

竹田総合病院 心臓血管外科

齋藤 正博、川島 大

77 炎症反応改善後に弁破壊の進行した感染性心内膜炎の一例

東北医科薬科大学病院 循環器科

○関口 祐子、山家 実、長谷川 薫、菊田 寿

住吉 剛忠、亀山 剛義、菅井 義尚、中野 陽夫

熊谷 浩司、大原 貴裕、小丸 達也

78 抗菌薬で鎮静化し得た黄色ブドウ球菌による若年感染性心内膜炎の1例

山形県立中央病院

○大道寺飛雄馬、永井 貴之、木下 大資、佐々木真太郎

高橋 克明、福井 昭男、玉田 芳明、松井 幹之

矢作 友保

79 アトピー性皮膚炎と心室中隔欠損症に合併した右心系感染性心内膜炎の一例

大原総合病院 臨床研修センター

○菅原 崇寛

大原総合病院 循環器内科

大竹 秀樹、谷 哲也、佐藤 雅之、待井 宏文

斎藤 修一

大原総合病院 総合診療科

菅藤 賢治

福島県立医科大学 循環器内科学講座

佐藤 崇匡、竹石 恭知

80 大動脈弁僧帽弁間穿孔に対し心内再建術で救命した感染性心内膜炎の一例

山形大学医学部附属病院 卒後臨床研修センター

○山口 翔

山形大学医学部附属病院 第一内科

成味 太郎、橋本 直明、加藤 重彦、有本 貴範

渡辺 昌文

山形大学医学部附属病院 第二外科

内田 徹郎、貞弘 光章

81 心室中隔欠損症に感染性心内膜炎を合併した1例

星総合病院

○磯松 大介、丸山 幸夫、木島 幹博、清野 義胤

坂本 圭司、松井 佑子、清水 竹史、佐藤 彰彦

八重樫大輝、黒沢 雄太

心膜・腫瘍(第4会場) 10:10~10:45

座長 伏見 悦子
及川 雅啓

82 急速に増大した右心室内悪性腫瘍の症例

総合南東北病院 循環器科

○矢野 奈美子、土川 幹史、永沼和香子、川村 敬一
大杉 拓、武藤 満、小野 正博

83 失神を契機に発見された心臓悪性腫瘍の一例

石巻赤十字病院 循環器内科

○竹内 愛、山中 多聞、田中 裕紀、高畑 葵
安藤 薫、山浦 玄斎、玉淵 智昭、小山 容

84 僧帽弁置換術後早期に発症した収縮性心膜炎の一例

福島県立医科大学 循環器内科学講座

○富田 湧介、佐藤 崇匡、喜古 崇豊、松本 善幸
小林 淳、中里 和彦、竹石 恭知

85 再発性心嚢液を契機に診断に至った全身性エリテマトーデスの一例

弘前大学 循環器腎臓内科学講座

○鹿内 駿、金城 貴彦、佐々木真吾、伊藤 太平
石田 祐司、富田 泰史
弘前大学 不整脈先進医学講座 木村 正臣、堀内 大輔



第167回 東北地方会

第14回 ダイバーシティ 推進委員会 セミナー

多様性のある働き方を考える
—ダイバーシティって何?—



2018年12月1日(土) 10:45~11:55

会場: 仙台国際センター 第4会場 (3階 白樺2)

【開会ご挨拶】

富岡 智子 (みやぎ県南中核病院 循環器内科)

【座長】

杉 正文 (いわき市立総合磐城共立病院 循環器内科)
熊谷 亜希子 (岩手医科大学 内科学講座循環器内科分野)

【講演1】「Work hard, play harder!

~理由のいらない月1有給休暇の取得を目指して~

有本 貴範 (山形大学 内科学第一講座)

【講演2】「楽しく循環器医師を続ける方法」

副島 京子 (杏林大学 第二内科)

【閉会ご挨拶】

後岡 広太郎 (東北大学 循環器内科)



アクセスマップ

〒980-0856 宮城県仙台市青葉区青葉山無番地

- 仙台空港よりタクシーで約50分
- 仙台駅よりタクシーで約7分
- 仙台駅より徒歩約30分
- 仙台駅→仙台市営地下鉄東西線国際センター駅→徒歩1分
- 仙台宮城ICより自動車で約10分



一般社団法人 日本循環器学会 主催

YIA 審査会 10:40 ～ 11:15 (1F 小会議室2)
支部役員会 11:15 ～ 11:45 (1F 小会議室2)
心肺蘇生法普及委員会 11:45 ～ 12:00 (1F 小会議室1)
支部評議員会・YIA 授賞式 12:00 ～ 12:40 (第1会場 2F 橘)

教育セッションⅠ

ランチョンセミナー1

12:50 ～ 13:50 (第1会場: 2F 橘)
座長: 東北大学 循環器内科学 教授 下川 宏明 先生

「PAH patient assessment today for a better tomorrow」

(イタリア)ボローニャ大学医学部 循環器内科(DIMES-UNIBO)
教授 Nazzareno Galiè 先生

共催: 第 167 回日本循環器学会東北地方会
アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン

教育セッションⅡ

ランチョンセミナー2

12:50 ～ 13:50 (第2会場: 2F 萩)
座長: 福島県立医科大学 循環器内科学講座 教授 竹石 恭知 先生

「心筋梗塞二次予防のための糖尿病管理を考える」

兵庫医科大学 内科学 循環器内科・冠疾患科
教授 石原 正治 先生

共催: 第 167 回日本循環器学会東北地方会
MSD 株式会社

教育セッションⅢ

特別講演

13:50 ～ 14:50 (第1会場: 2F 橘)
座長: 山形大学 内科学第一講座 教授 渡辺 昌文 先生

「心血管病態の解明に挑む;

イオンメカニズムから超音波新技術の応用まで」

秋田大学大学院医学系研究科 循環器内科学講座
教授 渡邊 博之 先生

共催: 第 167 回日本循環器学会東北地方会
日本メトロニック

DVDセッション 「医療安全・医療倫理に関する講演会」

専門医の認定更新に必修の「医療安全・医療倫理に関する研修」に関する2単位を取得できるDVDセッションを開催致します。

3月の日本循環器学会学術総会もしくはインターネットでも視聴できます。

詳細は以下をご覧ください。

＜必修研修と単位数＞

2009年3月20日の評議員会の審議を経て循環器専門医認定更新の際に

所定の研修が必修となりました。

専門医認定更新には下記の必修研修単位を含む合計50単位が必要となります。

(1) 最新医療の知識習得に関する研修・・・30単位以上

日本循環器学会主催の学術集会・地方会(いずれも教育セッションを含む)への参加にて単位を取得してください。

該当の研修単位数・・・本会年次学術集会10単位、(学術集会時の)教育セッション5単位、
各地方会5単位、(地方会時の)教育セッション3単位

(2) 医療安全・医療倫理に関する研修・・・2単位以上

本会学術集会または本会地方会で開催の「医療安全・医療倫理に関する講演会」への参加。

あるいはインターネットでの視聴研修プログラムによる研修で単位を取得してください。

単位数・・・(上記どの方法で取得されても)2単位

※同じ研修内容を視聴された場合には重複して単位は加算されませんのでご注意ください。

お問い合わせ先: (一社)日本循環器学会 専門医制度委員会 TEL: 03-5501-0863 E-mail: senmoni@j-circ.or.jp

一般社団法人日本循環器学会 支部規程

(総則)

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会（以下「日本循環器学会」という）各地区の支部（以下「各支部」という）の遵守すべき事項を定める。

(事務局)

第2条 各支部の事務局は、日本循環器学会定款施行細則に定める地区に置く。

(目的および事業)

第3条 各支部は日本循環器学会の目的達成のため次の事業を行う。

- 1) 地方会の開催
- 2) 日本循環器学会国際トレーニングセンター（JCS-ITC）としての講習会等の開催
- 3) 日本循環器学会本部からの委託事項の処理
- 4) その他目的の達成に必要な事業

(会員)

第4条 各支部の会員は、当該地区に所属する日本循環器学会の正会員および準会員とする。
2. 支部名誉会員/支部特別会員/支部顧問等の設置は各支部役員会で定めることとする。

(社員)

第5条 社員とは、日本循環器学会定款及び定款施行細則に基づき選出された各支部に所属する社員をいう。

(支部長)

第6条 各支部に支部長1名を置く。
2. 支部長は定款に基づき選出された支部所属理事の協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長は支部を統括する。
4. 支部長の任期は2年とし、再任を妨げない。

(支部役員)

第7条 各支部に支部役員を若干名置く。
2. 支部役員は支部所属理事及び支部長の推薦で選出された会員とし、支部長を除いた支部役員を支部社員総会で承認する。
3. 支部役員は、地方会、事業計画・報告、予算・決算、その他支部長の求めに応じて支部運営にあたる。
4. 支部役員の任期は2年とし、再任は妨げない。

(支部監事)

第8条 各支部に支部監事を若干名置く。
2. 支部監事は支部長が候補者を会員から推薦で選出し、支部社員総会で承認する。
3. 支部監事は支部の監査を行い、不正の事実があれば支部社員総会及び日本循環器学会本部に報告する。
4. 支部監事の任期は2年とし、連続して就任できる期数は3期までとする。

(支部幹事)

第9条 各支部に支部幹事を若干名置く。
2. 支部事務局担当幹事およびJCS-ITC担当幹事の設置は必須とする。
3. 支部幹事は支部長が会員から選出する。
4. 支部幹事は支部長を補佐し、役員会/社員総会において会計報告及びJCS-ITC業務の報告等を行う。
5. 支部幹事の任期は支部長の任期に準じ、再任を妨げない。

(支部評議員)

第10条 各支部に支部評議員を置くことができる。
2. 支部評議員は会員から選出する。
3. 支部評議員は支部業務を補佐する。
4. 支部評議員の選出方法/任期/定年等は各支部役員会で定めることとする。

(地方会会長)

第 11 条 各地方会に会長 1 名を置く。

2. 地方会会長は支部役員会の推薦で選出し、支部社員総会において承認する。
3. 地方会会長は地方会を主催し、その経理/事業内容を支部役員会及び支部社員総会に報告する。
4. 地方会会長の任期は、主催地方会にかかる業務が完了するまでとする。

(支部役員会)

第 12 条 支部役員会は、支部役員で構成する。

2. 支部役員会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の承認
 - 2) 地方会会長の選出
 - 3) 支部運営上重要な規則の承認
 - 4) その他本支部の運営に必要な事項の確認 (JCS-ITC 報告など)
3. 予算もしくは事業計画に大幅な変更が見込まれる場合には臨時支部役員会を開催しなければならない。
4. 支部役員会は支部長が招集し議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。
5. 支部役員会は過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部役員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
6. 支部役員会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部社員総会)

第 13 条 支部社員総会は、社員で構成する。

2. 支部社員総会は年 1 回以上開催し、主に以下の事項を扱う。
 - 1) 事業計画・事業報告及び予算・決算の確認
 - 2) 決定された支部長の確認
 - 3) 支部役員・支部監事・地方会会長の承認または解任
 - 4) 支部運営上重要な規則の確認
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部社員総会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の互選により選出する。
4. 支部社員総会は支部社員の過半数が出席しなければ、その議事を決議できない。ただし、当該議事につき予め書面をもって意思を表示したもの、および他の支部会員を代理人として表決を委任したものは出席者とみなす。
5. 支部社員総会の議事は出席者の多数決をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

(支部評議員会)

第 14 条 支部評議員会は、支部評議員で構成する。

2. 支部評議員会は年 1 回以上開催し、以下の事項の報告を受ける。
 - 1) 予算・決算
 - 2) 事業計画および事業報告
 - 3) 地方会会長及び地方会開催地
 - 4) 支部長の選出結果
 - 5) その他本会の運営に必要な事項 (JCS-ITC 報告など)
3. 支部評議員会は、支部長が招集し、議長となる。ただし支部長に事故あるときは他の支部役員が招集する。この場合、議長は支部役員の協議により選出する。

(支部事務局業務)

第 15 条 支部事務局業務とは、支部役員会、支部社員総会、支部評議員会の運営、各事業の補助等をいう。

2. 支部事務局業務は、原則支部年会費収入の範囲内で収支均衡に努めなければならない。
3. 支部事務局業務にかかる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、支部事務局担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。
4. 各支部は全事業の会計報告を毎月すみやかに本部事務局に報告することとする。

(地方会)

第 16 条 各支部は地方会を年 1 回以上開催する。

2. 地方会に演題を提出する者は原則として会員でなければならない。
3. 地方会収支について、原則、収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
4. 地方会において新たな試みを実施する場合は、事前に地方会会長と支部長で協議を行うこととする。
5. 地方会における参加費等の現金取り扱いについて、不正や過誤が発生しない体制を整えなければならない。
6. 地方会の経費精算は、地方会会長もしくは会長が定めた者が内容を確認したうえで実施する。なお全ての精算を原則地方会終了後 2 ヶ月以内に完了させること。

(JCS-ITC 講習会)

第 17 条 各支部は JCS-ITC 講習会を JCS-ITC 担当幹事が計画を取り纏め、開催する。

2. 講習会収支について、原則収入の範囲内で費用支出を行うこととし、収支均衡に努めなければならない。
3. JCS-ITC 講習会に関わる経費精算の職務権限について、予算内経費精算は、JCS-ITC 担当幹事による確認を必要(事後確認可)とする。予算枠外使用については、20 万円未満が支部長承認、20 万円以上が支部役員会承認を事前に必要とする。

附則

- 1) 本規則は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

支部コンプライアンス・倫理規程

（目的）

第1条 この規程は、一般社団法人日本循環器学会全支部（以下「支部」という）におけるコンプライアンスに関し基本となる事項を定め、もって健全で適正な学会運営及び社会的信頼の維持に資することを目的とする。

（定義）

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- 1) コンプライアンスとは、法令、各支部の諸規則を遵守することをいう。
- 2) 支部役職者とは、支部に所属する支部長・支部役員・支部監事・支部幹事・地方会会長をいう。
- 3) 支部職員とは、支部の事務を担当する職員をいう。
- 4) コンプライアンス事案とは、支部の構成員にかかわる法令又は定款等の本学会諸規則や支部会則等に違反、または違反するおそれのある事案をいう。

（支部役職者及び支部職員の責務）

第3条 支部役職者・支部職員は、支部の定める理念および目標を実現するため、それぞれの責任を自覚し、コンプライアンスの重要性を深く認識するとともに、人権を尊重し、高い倫理観を持って行動しなければならない。

2. 支部役職者・支部職員は、次に掲げることを理由として、自らのコンプライアンス違反行為の責任をのがれることはできない。

- 1) 規程について正しい知識がなかったこと
- 2) 規程に違反しようとする意思がなかったこと。
- 3) 支部の利益に資する目的で行ったこと

附 則

- 1) 本規則は、平成27年2月1日から試行期間とし、平成28年4月1日から完全実施とする。
- 2) この規程の改廃は日本循環器学会理事会の議決を経なければならない。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部運営内規

平成 28 年 4 月 1 日施行

平成 30 年 6 月 2 日改定

（総則）

第1条 この内規は、一般社団法人日本循環器学会支部規程を東北支部（以下「本支部」という。）において運用するために必要な事項を規定し、円滑な学会活動を推進することを目的とする。

（支部事務局）

第2条 本支部における支部事務局を東北大学大学院医学系研究科循環器内科学内に設置する。

（支部長・副支部長）

第3条 2年毎に行われる理事選出選挙の後、第6条2項に沿い支部長を決定するが、支部長の任期開始日は4月1日からとする。

2. 支部長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3. 支部長が本支部とは別の支部に異動した場合、支部長として退任となる。

第4条 本支部に副支部長1名を置く。

2. 副支部長は支部所属理事の中から協議で決定し、支部社員総会において報告する。
3. 支部長に事故あるとき、または支部長が別支部へ異動したとき、副支部長を新たな支部長とする。この場合の任期は、退任した支部長の任期に準ずる。

（支部役員）

第5条 支部役員は、支部規程第7条1項に沿い、支部所属理事の他、支部長推薦枠として本支部においては、会員である東北地区7大学の循環器を担当する内科の教授が就任することとする。その他にも支部役員として必要な人物がいる場合は、支部長が推薦する。

2. 任期中において各大学教授の交代があった場合は役員も変更となるが、就任期間は前任者を引継ぐこととする。
3. 支部役員は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

（支部監事）

第6条 支部規程第8条1項に定める支部監事の定数は、本支部においては2名とする。

2. 支部規程第8条2項に定める支部監事の選出について、本支部においては、支部運営から独立性をもった者を、支部長が候補者を会員から選出することとする。なお独立性を鑑み、支部役員、支部幹事との兼務は不可とする。
3. 支部監事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。

（支部幹事）

第7条 支部規程第9条に定める支部幹事は、本支部においては支部事務局担当幹事1名、JCS-ITC担当幹事1名、その他幹事を若干名とし、支部役員、支部評議員との兼務も可能とする。

2. 支部幹事は、「支部コンプライアンス・倫理規程」を確認し、その内容を遵守しなければならない。
3. 支部事務局担当幹事ならびに JCS-ITC 担当幹事は、それぞれの業務における月度毎の収支状況をモニタリングし、予算進捗確認を行わなければならない。予算に対し収支悪化の場合は、対策を

検討し支部長へ報告すること。また収支改善の場合は、その資金活用方法について検討し支部長へ報告することとする。

4. JCS-ITC 業務担当幹事は、会員かつファカルティーの中から選出することとする。ファカルティーがいない場合は会員かつコースディレクターの中から選出する。
5. 支部幹事は、それぞれの業務において投資が必要な場合は、事業計画、予算において明確化し、支部役員会・支部社員総会において発言し、承認を得なければならない。

（支部評議員）

第 8 条 支部規程第 10 条に定める支部評議員は、支部役員 1 名の推薦により選出し、支部役員会及び支部社員総会において承認する。

2. 候補者は、支部役員会予定日より 15 日以前に所定の用紙を用いた履歴書、業績書及び支部役員 1 名が署名・捺印した推薦書を支部長へ提出する。
3. 支部評議委員会に正当な理由なく 3 回連続して欠席した者、退会した者、東北地区から移動した者は、支部評議員の資格を喪失する。
4. 支部評議員の任期は 4 年とし再任は妨げない。
5. 支部評議員の辞職は支部役員会及び支部社員総会において承認する。
6. 支部評議員の期中での辞職については、速やかに補充を行うこととし、支部役員会にて承認した上で、後日支部社員総会において追認する。なお任期は前任者を引継ぐこととする。

（地方会会長）

第 9 条 地方会会長は、「支部コンプライアンス・倫理規程」に定められた内容を遵守しなければならない。

2. 地方会会長は、「臨床研究の利益相反に関する共通指針の細則」に定められた様式の利益相反の自己申告書を支部長経由で本会へ提出しなければならない。
3. 地方会会長は、地方会開催日程の決定を行う。
4. 地方会の主題および演題の選定および採択は、会長が裁量する。
5. 地方会実施にあたり、会長の推薦にて会長校事務局長を任命してよい。会長校事務局長は、会長からの指示に基づき、地方会運営を補助することとする。
6. 地方会運営にあたる企画会社の選定は、会長一任とするが、企画会社手数料が過多とならないことを事前に確認しなければならない。
7. 地方会開催にあたり収入の受入れ、費用の精算の為、会長名において専用口座を開設しなければならない。口座開設と同時にキャッシュカードを作成する場合は、会長から使用者・保管者を指名し、それ以外のものが利用出来ない体制を構築しなければならない。
8. お届け印、通帳は会長または会長が指名した者が保管する。保管にあたっては必ず施錠し、本人のみが解錠出来る体制としなければならない。

（支部名誉会員）

第 10 条 支部規程第 4 条 2 項に定める支部名誉会員は、東北地区単独の支部社員総会において選任する

2. 支部名誉会員の被推薦資格は、支部社員総会開催日において年齢 65 歳以上（当日に 65 歳を迎える者を含む）の東北支部所属の会員であり、支部評議員を 3 期以上務めたものとする。

3. 支部名誉会員は、支部評議員会に出席することができる。また、支部社員総会にも出席することができるが議決権は有しない。
4. 支部名誉会員は、支部役員、支部幹事の兼務を不可とする。
5. 支部名誉会員は、永年資格とする。
6. 支部名誉会員の内、東北地方会で会長を務めた者、支部長を務めた者は、支部特別名誉会員と呼ぶ。処遇は支部名誉会員に準用する。

(支部社員総会、支部評議員会)

第 11 条 支部規程第 13 条に定める支部社員総会、支部規程第 14 条の支部評議員会は、同時開催することとする。

(支部事務局業務)

第 12 条 支部規程第 15 条における支部事務局業務は、事務局担当幹事を補佐し、円滑に業務を遂行することを目的として、本業務に従事する人員を支部役員会の承認のもと採用しても構わない。雇用条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

(地方会)

第 13 条 支部規程第 16 条 1 項に定める地方会について、本支部は原則として毎年 2 回地方会を開催する。

2. 地方会の名称は、第〇〇回日本循環器学会東北地方会とする。
地方会運営に関するその他の事項は地方会運営要領に定めることとする。

(JCS-ITC 講習会)

第 14 条 支部規程第 17 条 1 項に定める JCS-ITC 講習会について、本支部は JCS-ITC 業務担当幹事との協議により支部事務局において事務業務（受講者への連絡、受講料受付・謝金や立替金の精算等）を行う。なお、これらの事務業務について、円滑に業務を遂行することを目的として、支部役員会の承認のもと、外部業者へ業務委託を行っても構わない。委託範囲・経済条件の変更がある場合は、支部役員会での承認を必要とする。

2. JCS-ITC 講習会の事務業務については JCS-ITC 講習会事務要領に定めることとする。

附則

- 1) この内規は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- 2) この内規改正は、支部役員会において審議し、支部社員総会にて決定する。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 地方会運営要領

平成 28 年 4 月 1 日施行

平成 30 年 6 月 2 日改定

この地方会運営要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部（以下「本支部」という）において地方会を円滑に運営するために必要な事項を規定する。

（広報）

- 1 地方会会長は、地方会開催日程、会場、地方会会長事務局の担当者が決まり次第、本支部へ報告する。本支部は「地方会開催連絡票」を本会へ提出するとともに、本支部ホームページに情報を掲載することとする。
- 2 本支部地方会に関する事項は、本会の会告及びその他の手段により会員に広報する。

（会計）

- 3 地方会会長、または、支部事務局担当幹事は、開催前年度の支部役員会・支部社員総会に出席して、本部へ提出予定の地方会予算及び事業計画について事前に承認を得る。また、支部評議員会にて報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる
- 4 地方会参加費は、正会員 3,000 円、コメディカル 1,000 円、初期研修医無料、学部学生無料とする。参加費を変更する場合は支部役員会での承認を必要とする。
- 5 地方会での寄付の受入は、「寄付金取扱規程」に基づき対応する。なお寄付金受入先について、本会が禁煙宣言を行っている学会であることを鑑み、本会学術集会同様、日本たばこ産業・鳥居薬品からの寄付受入は禁ずる。
- 6 地方会において市民公開講座及び託児室設置を実施する場合は、本支部よりその経費を補助する。ただし、上限を 100 万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
- 7 地方会において男女共同参画セミナーを実施する場合は、本支部より講師招請経費を補助する。ただし上限を 20 万円とする。補助金は、経費内訳及び証憑書類の提出を持って交付するものとする。
- 8 地方会開催にあたり開設する金融機関の口座名義は、「一般社団法人日本循環器学会 第〇〇回東北地方会 会長 〇〇〇〇」とする。
- 9 地方会当日の現金（参加費）の取扱いについて、不正や過誤が発生しないよう関係するスタッフの教育を十分行わなければならない。
- 10 地方会当日に徴収した参加費について、当日中に口座入金するか金庫に保管することとする。地方会終了後、翌営業日には口座入金することとする。
- 11 教育講演の招請者への待遇について、謝金上限は演者 100,000 円（源泉税抜）、座長 50,000 円（源泉税抜）、交通費は実費支給とし、地方会当日、直接本人へ現金もしくは振込対応する。これ以外の対応を行う場合は、支部役員会での承認が必要とする。
- 12 地方会で支払われた講演謝金及び会長校スタッフ臨時雇用費の源泉所得税は、地方会会長事務局において納付対応する。なお東北支部事務局から参加したスタッフ臨時雇用費は、東北支部事務局において納付対応する。

- 13 地方会経費の精算は、リスク管理の観点から現金での精算を禁じ、原則請求書対応とする。請求書対応が難しい場合は、企画会社・スタッフによる立替精算を行い、後日レシートや領収書をもとに精算する。
- 14 地方会終了後、余剰金が発生した場合、支部管轄の地方会繰越金専用口座に振り込むこととし、地方会開催に関係無い備品等の購入に充ててはならない。その後、口座は解約する。
- 15 地方会の経費精算は、原則地方会終了後2か月以内に完了させ、入出金に係るすべての証憑を本支部に提出しなければならない。外部の団体から助成金・補助金を受けた場合は、交付決定通知書の控えも提出すること。
- 16 地方会会長は、開催次年度の支部役員会・支部社員総会、支部評議員会に出席して、地方会決算及び事業内容の報告を行う。ただし、地方会会長の出席がかなわない場合は代理を立てることができる。

(会議)

- 17 支部役員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部事務局が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
- 18 支部社員総会、支部評議員会を地方会当日に開催する。議案書及び議事録は本支部が作成することとする。地方会会長事務局は、本支部の求めに応じて当日の受付及び配布資料の準備等を行う。
- 19 地方会における華美な懇親会の開催を禁じる。

(演題募集)

- 20 地方会会長は、演題募集スケジュールを決定し、「地方会演題募集ホームページ利用申請書」を本会及び本支部へ提出する。演題募集の開始日・締切日は前後に祝日のない火曜日から木曜日で設定すること。申請書の提出期限はオンライン演題募集システム利用開始の2カ月前とする。
- 21 本支部は、オンライン演題募集システムの管理者用ID及びパスワードを地方会会長事務局へ通知する。なお、パスワードについては、本支部が毎年度更新することとし、変更後のパスワードを本会に通知する。
- 22 募集締切日延長等の連絡は、混乱を避けるために必ず本会経由で行うこととする。

(専門医単位登録)

- 23 地方会会長は、詳細が決まり次第「教育セッション開催届」ならびに「DVDセッション開催届」(DVDセッションを開催する場合に限る)を本会及び本支部へ提出しなければならない。
- 24 地方会会長事務局は、地方会時に専門医単位登録(地方会参加5単位、教育セッション参加3単位、DVDセッション参加2単位)を行うこととするが、本会から明示された「単位登録の運営方法について」に沿って対応しなければならない。
- 25 教育セッション及びDVDセッションの専門医単位登録は、不正やミスを防止するため、時間を限定して行わなければならない。(例：セッション開始1時間(又は30分)前から終了30分前)
- 26 DVDセッションについて、同じ内容の講演会を学術集会及びインターネットで聴講したことのある会員は、単位加算ができない。地方会会長は事前にプログラム等でその旨を告知し、当日も会場に掲示すること。

(プログラム・抄録)

- 27 プログラムは、本学会告(偶数月 25 日発行)への抱き合わせで本支部会員へ発送することができる。希望する場合は、「地方会プログラム冊子抱合発送申請書」を本会及び本支部へ提出すること。プログラム以外の発送物(チラシ等)があれば、その内容を申請書に明記すること。申請書の提出期限は、会告発行 1 か月前とする。
- 28 抄録については、冊子発行を行わず本会ホームページに掲載する。本会ホームページへの掲載にあたり、抄録著者による校正は行わない。訂正等がある場合には、地方会終了後速やかに本会へ連絡することとする。なお、地方会会長事務局は、その旨をプログラムに記載し会員に告知すること。
- 29 プログラム完成後、本支部へ 2 部、本会へ 5 部を送付すること。
- 30 地方会会長は、抄録データを本会に提出しなければならない。当日発表されなかった演題は抄録データとして扱わない。

(演題発表)

- 31 地方会演者は、発表前のスライドにおいて定められた様式「利益相反の自己申告書」を提示する必要がある。
- 32 日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award について
 - 1) 当支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA「症例発表部門」「研究発表部門」)を設ける。
 - 2) 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法、演題応募要領は以下に記載する。ただし、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。

① 応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下の方。

東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

② 対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に 1 施設 2 題(ただし 1 科 1 演題)までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

③ 選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞 1 名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門 5 題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

④ 会長奨励賞

YIA 希望演題の内、一般病院の演題から 1 題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題が YIA 最優秀賞または優秀賞に選

出された場合はYIAを優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。

⑤ 応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

⑥ 賞

部門毎に最優秀賞1名(賞金 10 万円)および優秀賞若干名(賞金 5 万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。会長奨励賞は1名(賞金 5 万円と表彰状)。

⑦ 締切り

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

- 3) YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授 6 名と大会長が選出する 6 名の選考委員の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の教授が交代で務めることとする。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の 6 名の選考委員については大会長が再度選出する。

(その他)

- 33 会員への印刷物送付等の必要が生じた場合、本会へ「会員名簿・あて名作成依頼書」を提出して会員名簿及び宛名ラベルを請求することができる。会員情報のデータでの受け取りは原則不可とするが、例外的に申請する場合は、誓約書に会長の署名及び捺印が必要となる。
- 34 地方会開催校については、公平を期すため各県で順番に開催する。なお、その順番等の変更については、支部役員会にて決定する。

附則

- 1) この要領は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。この要領改正は、支部長の判断に基づき、支部事務局にて変更して良い。なお、変更時は、支部役員会での追認が必要となる。

一般社団法人日本循環器学会 東北支部 JCS-ITC 講習会事務要領

この事務要領は、一般社団法人日本循環器学会東北支部事務局において JCS-ITC 事務業務（受講料受付・謝金や立替金の精算 等）を行うために必要な事項を規定する。

日本循環器学会は AHA(アメリカ心臓協会)と契約し、心肺蘇生法の教育を行う JCS-ITC(国際トレーニングセンター)を開設している。循環器専門医は心停止や心停止前後での蘇生や心拍再開後の集中治療を必要としていることから、AHA ACLS(二次救命救急措置)の資格取得を受験の条件としている。

また、医療従事者や一般市民向けのコースも開催しており、地域の救命率向上を目指していることから支部にてコース運営を行っており、それに付随する事務業務も支部事務局にて行っている。

※支部運営内規 第 6 条 3 にて定められる JCS-ITC 業務担当幹事はファカルティから選出される。

ファカルティは各コースの運営統括責任者であり、新たなインストラクターを教育する立場である。

1. 年 4 回のインストラクター一覧更新時に、本会事務局より受領したインストラクター一覧を支部長ならびに幹事に提出すること。
2. コース開催日程は、支部ホームページに掲載することとする。
3. コース募集期間中、コースディレクター（以下、CD と略す）と連携を取り、受講者からの問い合わせ対応を行うこと。
4. 下記内容についての受講者への連絡を行うこと。
採択通知、追受講者の代理登録（CD より指示があった場合）、会場変更、コース中止
5. 講習会管理システムから受講者を確認し、受講者からの受講料入金確認を行うこと。規定日までに入金が確認できない場合には、入金の督促を行うこと。
6. 受講者より受講料領収書の発行依頼があった場合の発行手続きを行うこと。
7. 支部担当者が交代する場合には業務内容を明確の上、後任者へ引継ぎを行い、業務に支障が生じないようにすること。また支部担当者が急病等で業務を行えない場合は、事務局担当幹事より JCS-ITC 業務幹事に速やかに連絡をし、JCS-ITC 業務幹事と支部長において今後の対応を検討すること。
8. 業務管理を明確化することを目的として、JCS-ITC 業務専用の口座を開設してよい。
9. 専用口座は、通帳管理者・印鑑管理者・キャッシュカード使用者（作成している場合のみ）を明確にし、一覧にして支部長へ提出しなければならない。（一覧に変更が生じた場合は随時、見直しを行い更新の上、提出する。）
10. 専用口座の通帳、印鑑は、使用者が施錠出来る場所に必ず保管しなければならない。また、キャッシュカード、パスワードについては使用者が変更となる度に変更しなければならない。
11. コース開催時にコースディレクター等が昼食代等の立替精算をした場合、必ず領収書（レシート可）を入手し、何を購入し、何に利用したのか、誰が立替えしたのか、分かるように領収書に記載（メモ書き可）の上、支部事務局へ提出すること。なおコース運営が参加者の受講料から成り立っていることを鑑み、不必要な経費支出は行ってはならない。
12. コース終了後、コースディレクターは参加インストラクター・タスクと各自立替えしたコース開催地までの交通費について、支部事務局へ報告しなければならない。支部事務局はコースディレクターからの報告に基づき、インストラクター・タスク一覧を作成する。
13. 各コースディレクターがコースに必要な資金を前に仮払金として引出して使用する場合は、予め仮払金申請書を作成し、JCS-ITC 業務担当幹事のメール承認を要する。
なお、JCS-ITC 業務担当幹事がコースディレクターとなる場合は、支部長のメール承認を要する。

14. 経費精算において、振込対応では無く、上記の仮払金を活用し現金にて謝金精算や立替精算を行う場合は、必ず受領者から支部宛ての領収書を頂き、証憑として支部事務局へ提出しなければならない。
15. 支部事務局は、インストラクター・タスク一覧、提出された旅費申請書、領収書等に基づき、謝金（交通費・宿泊費含む）・立替金の精算を行う。また謝金源泉税分の納税を行う。（謝金金額については本会、救急医療委員会において定められたとおりとする。また旅費申請書、領収書等の証憑が無いものの精算は出来ない。）
16. 支部事務局は、収入・経費を取纏め（漏れが無いこと、経費使用理由等が明確であること等を再確認）の上、本部事務局へ提出し会計ソフトへの入力を依頼する。
17. JCS-ITC 講習会運営専用口座で余剰金が 1000 万円を超えた場合、支部の JCS-ITC 講習会専用口座に資金を移行する。

附則

- ・この要領は、平成 27 年 2 月 1 日から試行期間とし、平成 28 年 4 月 1 日から完全実施とする。
- ・この要領改正は、支部役員会での決定を必要とする。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award 会則

平成 28 年 4 月 1 日施行

平成 30 年 6 月 2 日改定

1. 日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA)を設ける。
2. 本会則は平成21年2月14日に開催される第147回東北地方会から有効とし、本会則の変更は総会で審議・決定される。
3. 東北地方会 YIA の応募資格、応募方法は演題応募要領に記載するが、地方会主催の当番校会長の裁定をもって変更は許可されるものとする。
4. YIA 選考委員会は大会長を選考委員長として、各県大学の循環器内科教授 6 名と大会長が選出する 6 名の選考委員の計 12 名で構成される。ただし、宮城県に於いては東北大学と東北医科薬科大学の教授が交代で務めることとする。選考委員に代理を置く場合は、教授選考員の場合は教室の准教授または講師に委託し、その他の 6 名の選考委員については大会長が再度選出する。

日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award(東北地方会 YIA)

演題応募要領

趣 旨

日本循環器学会東北支部は、東北地区の循環器病学の発展と優秀な若手循環器専門医の育成を目的として、「日本循環器学会東北地方会 Young Investigator's Award」(東北地方会 YIA)を設け、毎回の東北地方会において、優秀演題の表彰を行う。

応募資格

日本循環器学会員であり、各地方会開催日において満 35 歳以下の方。

東北地方会において過去に YIA を受賞した者は、最優秀賞・優秀賞を問わず、同じ部門への再応募はできない。他部門への申請は可とする。

対象演題

日本循環器学会東北地方会で行われた循環器学に関する臨床・基礎研究、且つ、症例報告を受け付ける。発表時点で印刷公表されていない演題内容を対象とする。ただし、応募者は筆頭演者でありその内容に中心的役割を果たしたものであることを必要とする。他の学会賞への応募と重複しないこととし、各部門毎に1施設2題(ただし1科1演題)までの応募とする。本 YIA は症例発表部門と研究発表部門それぞれで選考と表彰を行う。

選考方法

地方会演題募集時に YIA 応募希望を募り、地方会開催時には希望演題のみを対象とする YIA セッションを設ける。選考委員は本セッションに参加し、引き続き開催される YIA 審査委員会において厳重な審査を行う。症例発表部門と研究発表部門それぞれで最優秀賞1名および優秀賞若干名選定する。なお、希望演題数が各部門 5 題を超えた場合は、予め選考委員による第一次審査を行う。

会長奨励賞

YIA希望演題の内、一般病院の演題から1題を会長奨励賞としてあらかじめ選出しておき、当日表彰が行われる旨を演者に通知する。ただし、この演題がYIA最優秀賞または優秀賞に選出された場合はYIAを優先し、その回の会長奨励賞はなしとする。

応募方法

一般演題応募と同様に日本循環器学会ホームページより登録。Young Investigator's Award 応募希望者は応募資格を確認のうえ、「YIA に応募する」にチェックを入れ、症例発表部門と研究発表部門のどちらに応募するかを予め明記する。

賞

部門毎に最優秀賞1名(賞金 10 万円)および優秀賞若干名(賞金 5 万円)と表彰状。同点の場合は要検討とする。

会長奨励賞は1名(賞金 5 万円と表彰状)。

締 切

一般演題締切日と同日とする。一次審査後採択されなかった場合は、自動的に一般演題に採択される。

第 167 回日本循環器学会東北地方会 YIA 審査委員

(敬称略)

青 森

弘前大学 循環器腎臓内科学講座
青森県立中央病院

教 授 富田 泰史
病院長 藤野 安弘

岩 手

岩手医科大学 循環器内科分野
岩手県立中央病院 循環器センター

教 授 森野 禎浩
センター長 中村 明浩

秋 田

秋田大学 循環器内科学
市立秋田総合病院

教 授 渡邊 博之
副院長 中川 正康

山 形

山形大学 内科学第一講座
山形県立中央病院 循環器内科

教 授 渡辺 昌文
部 長 松井 幹之

宮 城

東北大学 循環器内科学
国立病院機構仙台医療センター 循環器内科

教 授 下川 宏明
部 長 篠崎 毅

福 島

福島県立医科大学 循環器内科学講座
大原総合病院

教 授 竹石 恭知
副院長 石橋 敏幸

日本循環器学会東北支部役員（平成30年10月1日現在）

支 部 長 下川 宏明

副 支 部 長 竹石 恭知

理 事 下川 宏明 竹石 恭知 横山 斉（外科分野／東日本地区）

支 部 役 員 下川 宏明（東北大学／支部長・理事）
横山 斉（福島県立医科大学／理事／外科分野）
中村 元行（岩手医科大学） 富田 泰史（弘前大学）
竹石 恭知（福島県立医科大学） 渡辺 昌文（山形大学）
森野 禎浩（岩手医科大学） 小丸 達也（東北医科薬科大学）
伊藤 貞嘉（東北大学／その他分野） 渡邊 博之（秋田大学）
齋木 佳克（東北大学／外科分野）
富岡 智子（みやぎ県南中核病院／女性分野）

名誉特別会員 白土 邦男 平 則夫 丸山 幸夫 三浦 博
伊藤 宏

名 誉 支 部 員 青木 孝直 芦川 紘一 池田 精宏 石出 信正
伊藤 明一 猪岡 英二 今井 潤 大和田憲司
岡林 均 小野 幸彦 門脇 謙 金澤 正晴
金塚 完 木島 幹博 小岩 喜郎 後藤 敏和
齋藤 公男 佐々木 弥 佐藤 昇一 高松 滋
立木 楷 田中 元直 田巻 健治 布川 徹
前原 和平 三浦 幸雄 三国谷 淳 室井 秀一
元村 成 盛 英機 保嶋 実 柳澤 輝行
山本 文雄 渡辺 毅

支 部 評 議 員 各県ごと五十音順 ○印は社員（旧：全国評議員）

青 森	佐々木真吾	富田 泰史	長内 智宏	花田 裕之
	平賀 仁	福田 幾夫	藤野 安弘	森 康宏
岩 手	伊藤 智範	小松 隆	佐藤 衛	瀬川 郁夫
	田代 敦	中村 元行	野崎 英二	蒔田 真司
	○森野 禎浩			
秋 田	阿部 芳久	飯野 健二	小林 政雄	齊藤 崇
	鈴木 泰	田村 芳一	中川 正康	長谷川仁志
	○渡邊 博之			
山 形	池田こずえ	池野栄一郎	小熊 正樹	金谷 透
	○久保田 功	貞弘 光章	菅原 重生	廣野 摂
	福井 昭男	松井 幹之	宮脇 洋	○渡邊 哲
宮 城	○伊藤 健太	○伊藤 貞嘉 ³	加賀谷 豊	上月 正博
	小丸 達也	○齋木 佳克 ¹	西條 芳文	坂田 泰彦
	○下川 宏明	杉村宏一郎	高橋 潤	○富岡 智子 ²
	○堀内 久徳	山家 智之		
福 島	石田 隆史	石橋 敏幸	○齋藤 修一	齋藤 富善
	佐藤 匡也	杉 正文	○竹石 恭知	武田 寛人
	中里 和彦	○横山 斉 ¹		

1. 外科分野 2. 女性分野 3. その他の分野

ダイバーシティ推進委員（旧 男女共同参画委員）＊ 委員長

木村 正臣（青森）	加藤 千里（青森）	熊谷亜希子（岩手）	八木 卓也（岩手）
伏見 悦子（秋田）	飯野 貴子（秋田）	池田こずえ（山形）	有本 貴範（山形）
＊富岡 智子（宮城）	後岡広太郎（宮城）	巽 真希子（福島）	杉 正文（福島）

会 計 監 事 石出 信正 猪岡 英二

幹 事 支部事務局担当幹事 ： 杉村宏一郎（東北大学）
JCS-ITC講習会担当幹事： 花田 裕之（青森県立中央病院）
幹 事： 坂田 泰彦（東北大学）